

第5回新潟性感染症(STD)研究会

日時 平成15年9月26日(金)
午後6時30分～
会場 ホテルイタリア軒 3階
「サンマルコ」

一般講演**1 サイトメガロ感染を反復し、汎血球減少を来たした HIV 感染症の1例**

眞田 明子・櫛谷 幸嗣・西堀 武明
徐 利恵・杵渕 進一・塚田・弘樹
下条 文武

新潟大学大学院医歯学総合研究科
臨床感染制御学分野(第二内科)

症例は、30歳代の男性。全身倦怠感、胸部不快感で前医を受診した際に食道カンジタ症を指摘された。HIV抗体陽性が判明し、精査加療目的に当院に紹介入院した。CD4リンパ球数は $12/\mu\text{l}$ と低

下していた。発熱があり、サイトメガロウイルス抗原が陽性であり、ガンシクロビルで治療したところ、改善した。また、汎血球減少も出現し、薬剤の変更や血小板輸血やG-CSF製剤の使用で対処した。HAARTを開始するまでに6週間を要した。HIV感染症の治療に対しては合併症の対処も重要であると考えられた。

特別講演 I**「STDとしてのエイズ；現状と問題点」**

国立国際医療センター

エイズ治療・研究開発センター

岡 慎 一

特別講演 II**「風俗営業地区開業医から見た女子感染症の現状、問題点」～ HIV 感染も含めて**

浅草植村医院

植 村 一 郎